

女性委員会+福祉・防災まちづくり部会 合同セッション

テーマ

コミュニティア型 仮設住宅地を考える

運営 | 女性委員会、福祉まちづくり部会、防災まちづくり部会

日時…平成29年12月8日(金) 10:00~12:00

会場…京都市勧業館「みやこめっせ」
地下1階 特別展示場A

参加者…162名

活動報告

はじめに、女性委員会の小野金子委員長から平成29年度第27回全国女性建築士連絡協議会および「魅力ある和の空間」ガイドブック制作について、小林淑子委員から福祉避難所の調査報告があった。

防災まちづくり部会の佐藤幸好部会長と中西重裕副部会長から、災害時の迅速な復旧復興のための地域や行政との「普段付合い」「事前の備え」の行動指針の提案や、「復興等支援に係る事前活動指針」と「木造応急仮設住宅供給に係る連絡会議」の中間報告があった。

福祉まちづくり部会からは、行動計画や47地域リーダーへのアンケート結果を中村正則部会長が、東京オリンピック・パラリンピック関係の呼びかけを本多健委員が、今回のテーマに関する「十津川村復興住宅」の報告が東京建築士会の益尾孝祐氏からあった。

パネルディスカッション

会場の関係から3者の合同のセッションとなると聞き、不安から始まったが、活動報告が〈福祉避難所〉〈仮設住宅〉〈復興住宅〉と聞き、ストーリーが繋がった。共通するのは「コミュニティア型」、そこには常に「人」と「生活」の安全、安心

が無くしてはならない。

テーマ…「コミュニティア型仮設住宅地を考える」

コーディネーター…福祉まちづくり部会長 中村正則(徳島県建築士会)

パネリスト…女性委員会 松山梨香子(岩手県建築士会)、防災まちづくり部会 中西重裕(和歌山県建築士会)、福祉まちづくり部会 益尾孝祐(東京建築士会)

代表感想

パネリストの皆様のご意見から、被災地での現状の課題、各地域にあった木造住宅の必要性和コミュニティの持続可能な形をつくることの大切さ、さらには、建築士としての地域住民と行政との橋渡しの貴重な役割について改めて教えていただきました。福祉・防災まちづくり部会との合同により得ることができたものと思えます。皆様と共に今後の活動に活かしていけたらと思っております。

(小野金子/女性委員会 委員長)

私たち建築士は、建築を通して人の命と暮らしを支える大切な役割があると考えています。今回の合同セッションでは、コミュニティアをキーワードに、災害が発生してからの避難所→応急仮設→復興住宅→普段の生活再建まで



合同セッション全体会場風景

のプロセスで、建築士の役割がいかに大切かを、改めて考えるきっかけになりました。そして、それぞれの部会や青年、女性との連携も大切であることも確認できました。

(佐藤幸好/防災まちづくり部会 部会長)

避難所・仮設住宅・復興住宅の建設というハード面だけでなく、常に人々に寄り添うソフト面が大切なこと、そして大災害時のコミュニティア実現には、日頃の住民のコミュニティ活動や行政との事前の備えの大切さが再確認できました。防災・福祉・女性委員会との連携での取り組みの大切さが共有できたことも大きな成果です。福祉まちづくり部会として益尾孝祐氏の「十津川村復興住宅」の報告ができ、たいへん良かったと思います。

(中村正則/福祉まちづくり部会 部会長)



開会挨拶および趣旨説明



セッション出演者



セッション出演者